

# しょうがいとうじしゃせいかつ 障害当事者生活のリアルを直撃!!

あたう せいかつ て  
新しい生活を手に入れた  
しょうがいとうじしゃ たいけんたん  
障害当事者の体験談

24時間介助が必要である、脳性まひの  
Aさん(仮名)が、重度訪問介護を利用して、  
自立生活8年目を迎えました。そして昨年  
の秋ごろに、新居へ引っ越しをされました。  
今回は、引っ越しにまつわるエピソードを  
Q&Aで、ちょこっとご紹介します。  
引っ越しにあたっての思いをまとめました。



24時間介助を必要とする  
Aさん

Q. 引っ越しを決めたきっかけは？  
A. 災害とか(の)ことを考えて( )や部屋が  
ワンルームで、いつも同じ部屋に介助者と  
過ごすのは、しんどくなることもあるので、  
引っ越しをしようと思いました。



⇒右写真 広々としたキッチン

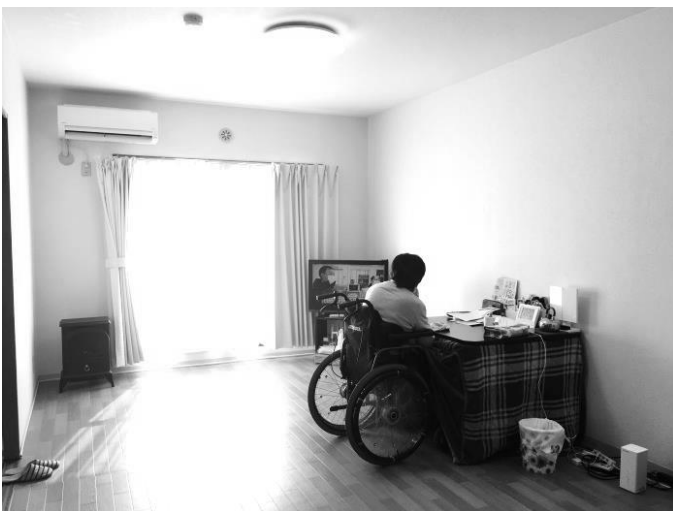
Q. 引っ越しの時に、一番苦労したことは？  
A. 物件を見に行く為に、不動産屋さんに行  
って、部屋の間取りや自分のことを分かっ  
てもらったことが大変だった。後、何度も物件  
を見に行っても、車いすを利用しているこ  
とで、審査に落とされて悔しかった。

Q. 引っ越しでわくわくしたことは？  
A. 引っ越しの為に、カーテンやエアコン等、  
買い物入っている時。

Q. 新居では、どんな生活をしていきたい？  
A. ゆっくり過ごすこと。  
時には、辛いこともあるけど、いろんな人と  
生活を作っていきたいと思います。

Q. これから引っ越しする人に、伝えたい  
ことは？  
A. 引っ越しは、体力が必要です。  
特に、家を見に行つて、「この家がいいな」  
と思つてもダメな時がありますが、諦めな  
いで下さい。

←左写真 リビングで過ごされている様子



ヘルプセンター・  
いこらー

# しょうがいとうじしゃ せいかつ かか なか 障害当事者の生活に関わる中で...

Aさんが家探しから引越しまでの間、相談支援員や介助者と一緒に、本人を中心として家探いや業者とのやり取り、買い物、荷造りなどを進めていきました。その中で、家探しから引越し準備に、関わった介助者からの感想やコメントをまとめてみました。

## 家探しに立ち会った介助者

Aさんの物件探しなどに関わらせてもらい、Aさんが試行錯誤しながら新居へ移ることは、自立をしているからこそ、できる経験なのだと感じました。Aさんの物件探しなどに、一緒にできたことは、私にとっても貴重な経験になりました。

新しい物件を決めるまでには、Aさんの希望と事業所側や介助者側からの視点も併せて、考慮していく事が必要になる時もあると、改めて感じました。また、Aさんが気に入られた物件があっても、管理会社に受け入れてもらえなかった時は、悲しかったと同時に、疑問が残りました。

## 物件探しの壁

Aさんは、火曜日から土曜日までは生活介護の活動がある為、休みの日の通院や買い物などの合間をぬって、家を探しておりました。不動産業者と日程調整をしながら、家探しがされるも、住みたい家が中々巡り合わず、本人も諦めかけておられる時もありました。

それでも、相談支援員に話を聞いてもらい、前向きに家探しがされた矢先に、管理会社によっては、『車いす』という事で拒否されたこともあり、本人と一緒に頑張って探そうと、応援してきた私達もすごくショックを受けました。

## 介助者への気遣い

新しい家が、最寄り駅から遠いという事に、Aさんがすごく悩んでおられ、住む

のはAさん本人なのに、介助者が通勤しにくい事をすごく気にされていました。

## 引っ越しの大変さ

引っ越しまでの2か月間に、何をすべきか、何を買ったらいいかを相談支援員と話を重ねながら、引っ越しに向けて進めていきました。引っ越しの準備は、生活介護の活動をしながら、夕方々就寝の空いている時間に、絶対に使用しない物から片付けていきましたが、1部屋しかない為、夜勤介助者の仮眠スペースの確保をしながらの片付けは大変でした。

また引っ越し後も、市役所での手続き、前住居の最終立ち合いなど、バタバタと動いており、1か月程度経ってようやく落ち着いた日常を送れるようになりました。Aさんの引っ越しに関わらせてもらって、しみじみと大変さを実感しました。

文責：藤原